私立大学研究ブランディング事業
平成30年度の進捗状況

学校法人番号	131085	学校法人名	法政大学		
大学名	法政大学				
事業名	江戸東京研究の先端的・学際的拠点形成				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	25,715人
参画組織	国際日本学研究所、エコ地域デザイン研究センター、文学部、デザイン工学部、法学部、経済学部、社会学部、国際文化学部、人間環境学部、現代福祉学部、キャリアデザイン学部、理工学部				
事業概要	江戸東京に蓄積され現在にも生きる固有の自然・歴史・文化・人的資源の発掘と再評価を通じて、この都市が文化的・空間的に持続している理由を解明し、そこから持続可能な地球社会を構築するための方法と理論とを導き出す。その知見を地球社会の諸課題を解決する〈実践知〉として育み広める教育研究拠点（仮称）「江戸東京研究センター」を設立し、日本文化の国際的発信者としての法政大学のブランドイメージを確立し展開する。				
①事業目的	本事業の目的は、地球社会の課題解決に向けた知の創出と自立的な市民の育成によって世界の持続可能性に貢献することを謳う＜法政大学憲章＞に則り、持続可能な社会（都市）のあり方を、江戸東京をモデルに、エコ地域デザイン研究センター（理系）と国際日本学研究所（文系）が連携し、学際的な研究体制のもとで国際的な視座・視点も加えながら探求することである。				
②平成30年度の実施目標及び実施計画	**◆事業全体及びブランディング事業** 「江戸東京の都市空間の特性に関する研究と＜実践知＞を生かした事業参加拡大」 ①学内の教員や学生，地元の町会や商店街，自治体，企業，中・高校との共同研究 ②「能力を引き出して育て」「地域の多様性に触れる経験」を通し「実践知を身につける」ことを目的としたプロジェクト教育 ③江戸東京の基層構造に関するシンポジウムの開催 **◆水都－基層構造プロジェクト** 多様な水の空間の類型化と可視化 **◆江戸東京の「ユニークさ」プロジェクト** 江戸東京の名所・景観研究 **◆テクノロジーとアートプロジェクト** 選定された各代表例の実証的な研究 **◆都市東京の近未来プロジェクト** 世界の次世代都市研究拠点との連携、都市問題の確認、東京近未来研究の位置づけ				
③平成30年度の事業成果	**◆事業全体及びブランディング事業** ①シンポジウム・研究会の開催 35回のシンポジウム・研究会を開催しそのほとんどを一般市民にも公開した。延べ参加者数は約3,800人に上った。年次計画に掲げた“基層構造に関するシンポジウム”は府中・武蔵国をテーマとし，博物館関係者自治体関係者を招き3月に開催した。 ②外濠市民塾の活動 学内のみならず地元の町会や商店街，自治体，企業，近隣の中高校と通年で研究活動を実施し，年度末に大規模シンポジウムを開催した。 ③高大院連携教育プログラムの実施 「江戸東京チャレンジ」と題して付属高校生，学部生，大学院生が参加する江戸東京研究プロジェクトを実施し、年度末に報告会を開催し報告書を発行した。 ④論文，学会発表，書籍発行等 江戸東京研究センターが発行・監修の著書2冊，研究員による著書16冊，報告書7冊，論文発表31件，学会発表33件の実績を上げた。 **◆水都－基層構造プロジェクト** 水の聖地と信仰・遊興の空間、庭園を中心とした水と緑の空間の継承の意味、また古墳と現代東京の関係、住宅地の歴史的な形成に関する研究を実施し，それらの成果を14本の論文・発表にて公開した。府中・武蔵国の古代中世をテーマとしたシンポジウムも開催した。 **◆江戸東京の「ユニークさ」プロジェクト** 江戸東京の名所研究についての研究会・シンポジウムを計7回開催し，研究の経緯においてキーワードとしてあがった「追憶」をテーマにしたシンポジウムを年度末に開催した。江戸東京名所に関連する地図制作作業も開始した。 **◆テクノロジーとアートプロジェクト** 「テクノロジーとアート」の卓越した場である東京を多面的に照射することを試み，7回の研究会・シンポジウムを開催，のべ30余名の専門家たちが登壇した。 **◆都市東京の近未来プロジェクト** 南カリフォルニア大学，トリノ工科大学の研究者・学生を招聘し約1週間にわたるワークショップ，シンポジウムを開催した。東京工業大学，横浜国立大学の次世代都市研究拠点との共同研究の連絡会議を毎月開催した。巨大再開発，小さなまちづくりの両当事者を招いた連続レクチャーを年8回，都市問題に関する専門家を招いた研究会を4回開催した。				

④平成30年度の自己点検・評価及び外部評価の結果	（自己点検・評価）目標の設定および実施計画はおおむね妥当かつ適切で、計画通りあるいは計画以上の成果があがっているとして委員からSあるいはAの評価を得た。（指摘事項）「大きな成果を上げている研究プロジェクトで法政大学にとってこの江戸・東京学は大きな財産ではないかと思われ、短期的な視点ではなく，中長期的視点で育んでいくことが必要ではないか」との指摘があった。
	（外部評価）目標の設定および実施計画はおおむね妥当かつ適切で、計画通りあるいは計画以上の成果があがっているとして、委員からSあるいはAの評価を得た。（指摘事項）全体として、非常に大きな成果があった。特に、出版物やシンポジウム、研究会等の外に見えるかたちでの成果がめざましい。非常に重要な研究が企画されていると思う。大学ブランディング事業としての枠組みはなんらかの方法でぜひ継続することが望ましい。
⑤平成30年度の補助金の使用状況	平成30年度事業予算の執行にあたっては，「私立大学研究ブランディング事業計画書」に基づく事業の実施に直接必要な経費を，補助要件及び学内規程を遵守しつつ下記内容のとおり執行した。 【研究費】 研究・調査・学会出張旅費，研究報告書制作費，研究用資料費，研究用資料電子化費用，中高大地域連携等の研究プロジェクト費用，派遣職員（事務補助）に係る費用，等。 【広報普及費】 シンポジウム・研究会・ワークショップ等開催費，私立大学研究ブランディング事業 兼 江戸東京研究センターwebサイト運用保守・改修費，江戸東京研究センターパンフレットvol. 2（私立大学研究ブランディング事業2018年度事業報告書）制作費，等。 【その他経費】 研究補助者及びRAに係る費用，外部評価に係る費用，江戸東京研究センター運営委員会実施費用，等。